

博士學位論文要約

論文題目： 中国における持続可能な介護保険制度の構想
—パイロット事業および日本の経験の分析から—

氏名： 楊 慧敏

要約：

本論文は、国土の広く人口や経済等に激しい格差がある中国において構築でき、かつ持続的に施行可能な介護保険の制度枠組みを明確化することを研究目的とする。

この目的を達成するために、パイロット事業の展開地である 15 地域および、中国に示唆ないし教訓を与えうる日本の介護保険制度を研究対象とし、以下の 3 つの研究課題を設定し、第 1 章から第 5 章、そして終章にそれぞれについての考察を加えている。

第 1 に、中国が直面している介護問題の内実を明らかにし、パイロット事業が定期された経緯を明確にすることである（第 1 章）。検討の結果、2020 年末で高齢化率が 13.5%、高齢者人口 1 億 9,063 万人の中国では、家族介護の限界から介護問題が切実な問題になりつつあり、2016 年に「介護保険パイロット事業」の展開が決定されたことが明らかにされている。

第 2 に、15 地域の特徴および、それらの介護保険の制度枠組みや相違点、特徴を明らかにすることである（第 2 章、第 3 章）。本論文は、相関関係のある経済発展（一人当たり GDP）と人口特徴（高齢化率）に注目し、15 地域を 4 つの象限に分けた上で分析を行なっている。

また、Gilbert, N. & Specht, H. の「分析的フレームワーク（誰に、何を、どのような組織を通じて提供し、その財源はどう賄われるのか）」に依拠しつつ、各地域の介護保険制度の特徴を浮き彫りにしている。その上で、先行した日本の介護保険制度との比較も試みながら、「高（低）収入高支出型」「高（低）収入低支出型」の 4 つの類型に分類している。

第 3 は、5 年にわたって運営されてきた 15 地域の介護保険制度における持続可能性の有無を検討し、中国に構築でき、かつ持続可能性のある介護保険制度の枠組みを明確にすることである（第 4 章、第 5 章、終章）。この課題をめぐっては理論的検討から、持続可能性のある介護保険制度の定義およびその 5 つの要素を導き出している。それらの要素を用いて、2000 年から 2020 年までの日本の介護保険制度は改正が重ねられることにより持続可能性を有することを評価している。そして、日本の経験が中国の制度構築・施行に与える示唆を考察している。

さらに、5 つの要素を用いて 15 地域の介護保険制度のパフォーマンスを評価すると同時に、今後の方向性を明示している。評価の結果、15 地域の介護保険の枠組みは多様であり、それぞれの課題を抱え、5 つ全ての要素において持続可能性があるものがない。なお、今後の方向として一つのパターンに収斂させるのではなく、①財政確立、②要介護者へのサービスの範囲、③現金給付と現物給付の組み合わせから 3 つのパターンを提示し、持続可能

性と実施可能性の両方を加味した提言をおこなっている。

最後に、中国政府による介護保険の制度枠組みの提示がなく、パイロット事業の期間が延長されている中、本論文で提起した3つの枠組みがその政策決定の一つの参照となることが期待される。